

| 1. 目標宣言 | |
|---------|--|
| ① | 計画期間最終年度である第2次燕市総合計画の目標達成に向け取組を一層推進するとともに、次の100年の礎を築く第3次燕市総合計画の策定に取り組みます |
| ② | 協働型(通年型)予算編成の取組強化により、持続可能な行財政運営に努めます |
| ③ | 女性を含む多様な人材が働き続けることのできる環境づくりを職場でも家庭でも整え、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指します |

(第2次燕市総合計画等における達成目標)

| 指標項目 | 基準値 (年度) | 中間目標値 (R1年度) | 目標値 (R4年度) | 該当する 目標宣言 |
|------------------|--------------------|-------------------|---------------|--------------|
| 総合計画の目標人口 | 79,784人 (H27年度) | 78,616人 (R2年度) | 78,000人 | ① |
| 財政調整基金残高 | 27.2億円 (H27年度) | 25.5億円 (R2年度) | 現状維持 | ② |
| ハッピー・パートナー企業の登録数 | 30社 (H27年度) | 60社 (R2年度) | 100社 | ③ |

2. 今年度の取り組み

| No. | 今年度の目標設定 | | | | 取組結果 | | 評価 | |
|-----|---|--|-------------------------|--------------------------|-------|--------------------------|--|-----|
| | 現状と課題 | 具体的な取組内容 | 目標指標 | | | 達成状況 | | |
| | | | 指標名 | 現状値 | 目標値 | | | 実績値 |
| ① | <p>・次期総合計画策定の基礎資料とするため、第2次燕市総合計画で定めた基本目標と戦略別計画について、令和3年度末時点の実績評価書を作成しました。コロナ禍の影響等により、戦略別計画の目標指標において最終目標値に達しない項目が多くある一方で、市民満足度が上昇傾向にある施策も多くみられました。</p> <p>・令和4年度は第2次計画の最終年度であることから、事業の見直し・改善を年度途中でも適宜、機動的に行いながら、令和4年度の最終目標値の達成に向け取り組んでいく必要があります。</p> <p>・令和4年度当初予算の重点施策を展開しながら、新たに顕在化してくる政策課題を的確に捉え、次の100年の礎を築く、第3次計画を策定する必要があります。</p> | <p>(1) 7月開催予定の総合計画審議会において、第2次計画の実績評価を行うとともに、第3次計画策定について審議会に諮問します。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症の影響により各施策の進捗に大きな影響が出ているため、協働型予算編成による政策協議等を通じて実効性を高めるとともに、施策や事業の見直しを適宜、機動的に行いながら、最終目標値の達成を目指します。</p> <p>(3) 第2次計画実績評価書により明らかとなった課題、DX・脱炭素等の社会変化への対応、議会や市民の皆さんの声などを総合的に取り込んだ、第3次燕市総合計画を策定します。</p> <p>(4) 市民の皆さんの、まちづくりや身近な環境などについての考えを把握するため、「まちづくり市民アンケート」を実施します。アンケート結果は、市政運営や第3次計画策定の基礎資料として活用します。</p> | R2実績値よりも数値を向上させた指標項目の割合 | 65% (R3見込) | 80.0% | 58.1% (R3実績) | <p>(1) 第2次総合計画成果指標について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実績値が悪化したもののうち、一部の指標で回復基調となりました。部長目標宣言の目標値は達成できませんでしたが、今後も引き続き、一日も早くコロナ禍前の水準に回復させることを目指します。</p> <p>(2) 「まちづくり市民アンケート」を10月に実施し、782人(回収率39.1%)の方からご回答いただきました。回答を取りまとめ、第3次総合計画策定や、令和5年度当初予算編成の基礎資料として活用しました。また、目標指標の「住みやすさ」の回答割合については、目標値89.7%のところ、89.5%となり、目標を概ね達成することができました。</p> <p>(3) 第3次総合計画について、策定スケジュールどおりに取組を進め、令和5年3月に計画を策定しました。計画初年度となる令和5年度は、先人たちが築き上げてきた次の100年に引き継いでいくための幸先の良いスタートが切れるよう、計画に沿った各施策の着実な推進を図ります。</p> | 4 |
| ② | <p>・重点施策や感染症対策の財源は、クラウドファンディングを含むふるさと燕応援寄附金によるところが大きく、ふるさと納税が本市の厳しい財政を下支えする財源構造がますます強まっています。そのため、ふるさと納税に頼り過ぎない財政構造へと転換することが求められます。</p> <p>・今後新たに顕在化してくる政策課題に的確に対応していくためにも、ふるさと納税に頼り過ぎない持続可能な財政運営に向け、国県補助金等の歳入確保や不断の事業見直しが必要不可欠です。</p> | <p>(1) 当該年度の重点事業等の迅速かつ着実な実施や状況に応じた改善を図るとともに、新たな政策課題への対応を来年度予算に反映させることを目的として、重点事業等に適切な目標指標の設定を徹底し、事業所管課との進捗管理、市長との政策協議を通年で実施する協働型(通年型)予算編成に継続して取り組みます。</p> <p>(2) 協働型予算編成を通じて、国県補助金等の歳入確保や事務事業・補助金の見直しも図りながら、限られた財源をより効果的な施策に配分し、持続可能な行財政運営に努めます。</p> <p>(3) 中期的な市税等の歳入や建物系保有量適正化計画に基づく施設の統廃合・改修費用を含めた歳出の見直しを推計し、本市の中期財政見直しを明らかにします。</p> | 財政調整基金残高(R4年度末残高) | 3,184,069千円 (R3年度末残高) | 現状維持 | 3,570,979千円 (R4年度末残高) | <p>(1) 令和5年度予算編成方針を職員に周知し、方針に基づく令和5年度事業について、企画財政課協議を経て、10月下旬に市長政策協議(オータムレビュー)を行いました。その後も協働型予算編成に取り組み、国県補助金等の歳入確保や事務事業・補助金の見直しの調整を行いながら、限られた財源をより効果的な施策に配分し、当初予算案を編成しました。</p> <p>(2) 中期財政見直しについて、策定時点で明らかとなっている収支に影響する事由については可能な限り反映し、策定・公表しました。</p> | 4 |

(評価区分) 5:取組によって想定(目標値)以上の成果が得られた 4:取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた(期待通りの成果物が得られた) 3:取組のすべてを実施した 2:取組方針等を策定した 1:協議・検討中

(第2次燕市総合計画等における達成目標)

| 1. 目標宣言 | |
|---------|--|
| ① | 計画期間最終年度である第2次燕市総合計画の目標達成に向け取組を一層推進するとともに、次の100年の礎を築く第3次燕市総合計画の策定に取り組みます |
| ② | 協働型(通年型)予算編成の取組強化により、持続可能な行財政運営に努めます |
| ③ | 女性を含む多様な人材が働き続けることのできる環境づくりを職場でも家庭でも整え、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指します |

| 指標項目 | 基準値 (年度) | 中間目標値 (R1年度) | 目標値 (R4年度) | 該当する 目標宣言 |
|------------------|--------------------|-------------------|---------------|--------------|
| 総合計画の目標人口 | 79,784人 (H27年度) | 78,616人 (R2年度) | 78,000人 | ① |
| 財政調整基金残高 | 27.2億円 (H27年度) | 25.5億円 (R2年度) | 現状維持 | ② |
| ハッピー・パートナー企業の登録数 | 30社 (H27年度) | 60社 (R2年度) | 100社 | ③ |

2. 今年度の取り組み

| No. | 今年度の目標設定 | | | | 取組結果 | | 評価 |
|-----|--|---|---|---------------|---------------|---|----|
| | 現状と課題 | 具体的な取組内容 | 目標指標 | | | 達成状況 | |
| | | | 指標名 | 現状値 | 目標値 | | |
| ③ | <p>・令和3年度実施の男女共同参画に関する市民意識調査(以下、「市民意識調査」)では、社会全体で見た場合、69.7%が「男性が優遇されている」と考えており、平等と感じている人は依然少ない状況です。</p> <p>・男女共同参画に関する事業所調査では、男性育休取得率が18.8%と前回調査(H27年度)の2.6%より大幅に増加しました。</p> <p>一方、市民意識調査では、男性の育休取得について72.1%の方が社会や企業の支援・理解が不十分であると捉えているため、引き続き、男性育休取得のメリット等について、企業への啓発が必要です。</p> <p>・本市の女性就業率は54.9%で県内20市中1位となっています。労働力確保の意味においても、仕事と子育てを両立できる職場環境の実現が重要であり、企業から積極的に改善に取り組んでもらうための仕組みや支援が必要です。</p> | <p>(1) 燕商工会議所、吉田・分水商工会、社会保険労務士と連携し、男性の育休取得の重要性とメリットについての啓発に取り組み、ハッピー・パートナー企業の登録や、つばめ子育て応援企業の認定につなげます。</p> <p>また、男性の育児休業取得促進奨励金の交付対象を市外在住の従業員にも拡充し、男性の育休取得を促進します。</p> <p>(2) 女性を含む多様な人材が活躍できる社会の実現(ダイバーシティ)を目的とした講演会を開催するとともに、企業の就業規則や社内制度の改善に必要な費用の一部を補助することで、誰もが活躍できる職場環境づくりを促進します。</p> <p>(3) あらゆる場面で女性の意見が反映されるよう、各種審議会や団体等への女性の登用促進を図ります。</p> | <p>ハッピー・パートナー企業の登録数(累計・H18～)</p> <p>90事業所</p> | <p>100事業所</p> | <p>103事業所</p> | <p>(1) 「ハッピー・パートナー登録企業」登録数は103社で、前年度比で13事業所の増加となりました。また、「つばめ子育て応援企業」認定数は53社で、前年度比で24事業所の増加となりました。</p> <p>社会保険労務士による企業への訪問啓発は、30事業所に実施し、3事業所が「つばめ子育て応援企業」認定につながるとともに、国・県も含む各種支援制度の周知なども図られました。</p> <p>「男性の育児休業取得促進奨励金」も前年度実績は4人でしたが、22人(市内8人・市外14人【令和2年度からの累計28人】)に大幅に増加しています。社労士による訪問啓発や交付対象を市外在住の従業員まで拡充したこと、広報つばめ1月号での育休パパ特集記事の掲載、母子手帳交付時のチラシ配布の効果と考えています。</p> <p>(2) 「女性活躍・ダイバーシティ推進フォーラム」は、オンラインと併用で開催し、社会保険労務士の講演と市内企業3社の社長によるトークセッションを行い、23社・団体、55人が参加しました。</p> <p>「みんなが活躍できる職場環境づくり推進補助金」は5事業所(全てつばめ子育て応援企業)から申請がありました。</p> <p>【申請内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内研修(中間管理職研修)…1事業所 ・外部研修(建設ディレクター養成講座)…2事業所 ・外部専門家のコンサルティング導入(職場環境改善)…2事業所 <p>(3) 女性委員の積極的な登用については、総務課と連携して各課に働きかけをしましたが、昨年度比0.8%の増にとどまりました。今後も女性の参画の必要性についての意識を高めるため、職員向け男女共同参画に関する研修会など継続的な働きかけをしていきます。</p> | 4 |

(評価区分) 5: 取組によって想定(目標値)以上の成果が得られた 4: 取組のすべてを実施し、見込み通りの成果をあげた(期待通りの成果物が得られた) 3: 取組のすべてを実施した 2: 取組方針等を策定した 1: 協議・検討中